



江府町 地域おこし協力隊 通信

今年8月から江府町に新たに着任した2名の地域おこし協力隊員。季節は秋から冬へと移り変わり、あっという間に今年もあとわずかとなりました。今月号も、江府町の地域おこし協力隊員の活動を報告します。

今月号のテーマ 「身近にある魅力」

農業部門（活動内容：農事組合法人宮市での商品開発など）



にしじま としあき
西嶋 俊明

宮市神社秋季大祭に参加して

11月に入り、高原の朝の寒さの洗礼を受けてますが、何十年ぶりかの石油ストーブでしのいでます。さて、10月14日、宮市神社秋季大祭に出席させて頂きました。お祭りといえば、子供の頃は親にお小遣いをもらえる日でもあって、心待ちな行事だったことを覚えています。この年になって、視点は大きく変わりましたが、お祭りはやはり楽しいものです。

今回の宮市のお祭りでは、神輿が田んぼの中の「御幸場」で休息するのですが、こういった光景は始めて拝見しました。

宮市神社は、「進氏」が紀伊国熊野より「若一王子権現」を勧請（神様の分霊を他の地に移して祭ること）したのが起源ということで、後に蜂塚氏に引き継がれ、もちろん四代右衛門尉に至っています。時を経て、明治元年にまわりの祠や神社を統合して、「宮市神社」になったということです。

『郷土の歴史を知らずに郷土を愛せない』という言葉もありますが、集落に受け継がれている歴史と伝統、そして住んでいる人たちの温かさをひしひしと感じる大変良い機会でした。思いがけず貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



▲田んぼの中にある「御幸場」での神事の様子

ふるさと教育（活動内容：日野郡公設塾まなびや「縁側」での塾講師）



あべ まさき
阿部 将樹

大山も雪を被り始め、冬を感じられるようになりました。今年も早いもので12月。師走の字の如く、走るように慌ただしく日々が過ぎていきます。

11月13日（金）に、日南町の白谷工房・中村健治さんを講師に招き、寄木細工をつくるワークショップを実施しました。生徒たちはデザイン考案に時間がかかったものの、最後は自身のアクセサリーの出来にととても満足している様子でした。森林豊かな日野郡で生活しているものの、その身近さ故にあまり目を向けてこなかった生徒たちも、改めて日野郡の自然に目を向けるきっかけになったと思います。

また、11月18日（水）には、「江府町中学生議会」に出席させていただきました。4つの班がそれぞれ考えたアイデアは、非常にバラエティに富んでおり、どのアイデアも実現したら……と考えるととってもワクワクしました！高校生になっても地域に関心を持ってアイデアを持ち続けて欲しいと思います。

いよいよ2020年も残りわずか。自分自身江府町の冬は初めてですが、生徒とともに雪に負けず受験に向けてのラストスパート、頑張っていきます。



▲寄木細工のワークショップの様子